

2018 伊丹国際クラフト展

2018 ITAMI International Craft Exhibition

shuki

shuhaidai

酒器・酒盃台

2018年 11.17 [土] — 12.24 [月祝]

伊丹市立工芸センター

月曜休館(祝日の場合翌日)・入場無料
10:00-18:00 (入館は17:30まで)

「伊丹国際クラフト展」は、今回で21回目を迎えました。

今年のテーマは「酒器・酒盃台」です。

清酒発祥の地・伊丹市は、酒造りの町として発展してきました。2013年10月には「清酒発祥の地 伊丹の清酒の普及の促進に関する条例」(「日本酒で乾杯」条例)も施行され、伊丹の酒文化の普及に向けた取り組みは、さらなる盛り上がりを見せています。「日本酒で乾杯するシーンを愉しむ酒器と楽しい酒の場を演出する道具としての酒盃台」をテーマに作品を募集したところ、海外10ヵ国61名を含む、268名1,396点の応募があり、厳正な審査の結果、97名が入選、そのうち8名が入賞されました。多様なバックグラウンドから寄せられた、素材や技法、コンセプトも様々な作品からは、乾杯する際の美しい所作を促し、ユニークな身体の動きを喚起することで、より自由で楽しい酒の場を印象づけるような作品も多く出品されています。確かな技術で作家の思想をかたちにした、多彩な「酒器・酒盃台」の表現を、お楽しみいただければ幸いです。



大賞: 大角 宏一
“赤の引力”



準大賞(白雪賞): TU Cheng-Chieh
“Sealed bag”



伊丹賞: LIN Chun
“Waiting to be Fixed”



優秀賞(白雪・伊丹諸白賞): 清水 美由希
“袖-TUMUGI-”



奨励賞(老松賞): 佐野 圭亮
“乾漆種器「いろいろ」”



奨励賞(光陽社賞): HANSEN Ragnar
“The Heart Drinks Sake”



グッドマテリアル賞(佐竹ガラス賞): 三野 直子
“BUCHI KUCHI”



審査員賞: 神山 和也
“檜雫(Kaidai)~Drops of Japanese cypress”

ものを創り表現する営為を支える第一のものは、作者の内から発する喜びを伴った衝動である。その衝動と喜びの強さを感じ取ることが、審査に当たらせてもらっている者の冥加なのだ。今回は、生の純粋な衝動と喜びが感じられる作品は多くなかったように思う。

全体としてはレベルが高く、それぞれの酒器・酒盃台がいざなう雰囲気は、十分に私を酔いしれさせてくれた。それだけ作者の企みと技量が卓越していたのだと思う。だが、企みといい技量といい、創ることによってそれらは二次的な要素だ。全くのわがままで、破綻を恐れぬ衝動に突き動かされた作品が見たい。喜びを抑えきれぬ弾けた作品が見たいと思う。皆さんが身につけた技量と企画力は、あなたの生の純粋な衝動と喜びのひろがりやを、作品として世に在らしめるために身に付けたものではないのだろうか。

審査員長 小清水 漸 [彫刻家・京都市立芸術大学名誉教授]

[Events]

01: 「伊丹国際クラフト展の入賞作家の作品で

伊丹のお酒を呑もう! ※飲食代実費

— 江戸時代の町家で愉しむ —

(伊丹郷町館 旧石橋家住宅カウンター)

11月23日[金祝]・24日[土] 11:00-17:30

— 街なかで愉しむ —

(伊丹市内飲食店各所)

11月28日[水]-12月19日[水]

02: ワークショップ「錫の酒盃づくりに挑戦!」

12月22日[土] ①10:30- ②14:00-

参加費: 3,000円 定員: 各15名(要予約)

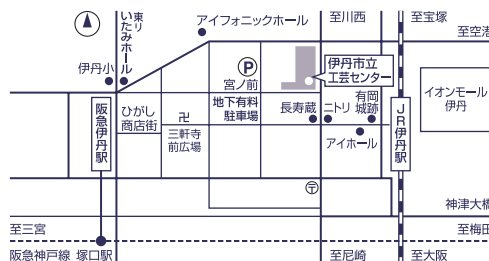
[表彰式]

11月17日[土] 13:00- B1F 企画展示室前ロビー

[次回予告]

2019 伊丹国際クラフト展 主題「ジュエリー」

登録締切 2019年8月予定



伊丹市立工芸センター

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前2-5-28
TEL: 072-772-5557 / FAX: 072-772-5558
http://mac-itami.com

阪急 | 伊丹線伊丹駅下車 北東へ徒歩約9分
JR | 宝塚線伊丹駅下車 北西へ徒歩約6分
※駐車場はございませんので、
宮ノ前地下駐車場[有料]をご利用ください。

主催: 伊丹市立工芸センター [公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団/伊丹市]
協賛: 小西酒造株式会社・伊丹老松酒造株式会社・株式会社光陽社・佐竹ガラス株式会社・伊丹酒造組合
後援: 近畿経済産業局・兵庫県・一般社団法人総合デザイナー協会(DAS)
株式会社ベイ・コミュニケーションズ・伊丹まち未来株式会社